

令和 5 年度

# 「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」

小中一貫校 むくのき学園

大阪市立啓発小学校

大阪市立中島中学校

令和 6 年 3 月

## 小中一貫校 むくのき学園 令和5年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

本校は、平成26年度に大阪府で2番目の全市募集による施設一体型小中一貫校として開校した。開校前の啓発小学校と中島中学校は、長年にわたり、きびしい学力状況と困難な生活指導を課題として抱える学校であった。しかしながら、地域と連携し、丁寧できめ細かい対応を日々続けることで、状況の改善を図り、児童生徒の心の拠り所となる「温かな学校」を学校文化として育んできた。また、長年にわたり、多様な人権教育の取り組みを推進することで、高い人権意識と豊かな心の育成を図ってきた。

小中一貫校開校時は、大阪府教育振興基本計画に示されていた多岐にわたる教育改革施策を現場において研究・推進する「大阪府教育改革総合モデル校」の役割を期待される立場であった。その中で、小中学校の円滑な接続と、小中の教職員の協働、ICTを活用した教育活動、新しい英語教育、自校調理の中学校給食など新たな課題への対応に迫られた。それぞれ違う環境の中で過ごしてきた小中学校の教職員が、小中共通の組織目標のもと、主体的・能動的に協働する姿が現在では自然となり、組織的に取組を推進できるようになった。

小中学校の全国学力・学習状況調査、大阪府中学生チャレンジテスト等での学力到達度を示す数値は、着実に向上はつづけているものの、まだまだ課題も多い。また、全市募集を行うなかで、不登校など様々な課題を抱える生徒の7年生編入、支援が必要な児童生徒の増加に伴う支援体制の維持など、新たな課題も出てきている。

**中期目標****【安全・安心な教育の推進】**

○令和4年度～令和7年度の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を毎年95%以上にする。【基本的な方向1：安全・安心な教育環境の実現】

○令和7年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的に答える児童生徒の割合を、小学校・中学校ともに95%以上にする。

【基本的な方向1：安全・安心な教育環境の実現】

○令和4年度～令和7年度の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童生徒数を毎年、前年度より減少させる。【基本的な方向1：安全・安心な教育環境の実現】

○令和4年度～令和7年度の校内調査において、不登校の児童（生徒）の割合を、毎年、前年度より減少させる。【基本的な方向1：安全・安心な教育環境の実現】

○令和7年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがありますか」の項目について、肯定的に答える児童生徒の割合を令和3年度（小学校：80%、中学校：61.5%）より5%増加させる。【基本的な方向2：豊かな心の育成】

○令和7年度末の校内調査の「人それぞれのちがいや命を大切にすることを学習している」（小学校）、「学校では、命や人権の尊さについて考えることにつながる学習をおこなうことができる」（中学校）の項目について、肯定的に答える児童生徒の割合を、95%以上にする。【基本的な方向2：豊かな心の育成】

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和 7 年度の小学校学力経年調査・中学生チャレンジテストにおける標準化得点・対府平均値を、同一母集団で比較し、いずれの学年も令和 3 年度の標準化得点より向上させる。（3 年：96.2、4 年：100.3、5 年：96.7、6 年：97.0、7 年：99.6、8 年：98.4、9 年：95.1）  
【基本的な方向 4：誰一人取り残さない学力の向上】

○令和 7 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を、同一母集団で比較し、いずれの学年も、令和 3 年度（3 年：30.2%、4 年：21.1%、5 年：23.2%、6 年 20.5%）より 5 ポイント減少させる。

【基本的な方向 4：誰一人取り残さない学力の向上】

○令和 7 年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を、同一母集団で比較し、いずれの学年も令和 3 年度（7 年：14.9%、8 年：26.5%、9 年：45.9%）より 5 ポイント減少させる。

【基本的な方向 4：誰一人取り残さない学力の向上】

○令和 7 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を、同一母集団で比較し、いずれの学年も令和 3 年度（3 年：32.1%、4 年：31.6%、5 年：10.7%、6 年：15.9%）より 5 ポイント増加させる。

【基本的な方向 4：誰一人取り残さない学力の向上】

○令和 7 年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を 2 割以上、上回る生徒の割合を、同一母集団で比較し、いずれの学年も令和 3 年度（7 年：14.9%、8 年 22.4%、9 年：24.3%）より 5 ポイント増加させる。

【基本的な方向 4：誰一人取り残さない学力の向上】

○令和 7 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、令和 3 年度（3 年：66.6%、4 年：68.5%、5 年：62.5%、6 年：81.8%、中学校：83.2%）より 5 ポイント増加させる。

【基本的な方向 4：誰一人取り残さない学力の向上】

○令和 7 年度末の校内調査の「習熟度別少人数授業やグループ別の授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に答える児童生徒の割合を 90%以上にする。

【基本的な方向 4：誰一人取り残さない学力の向上】

○令和 7 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、小学校では特に課題である 50m 走と立ち幅とびの平均の記録を、令和 3 年度より向上させる。

（50m 走：男子 8.79 秒、女子 9.46 秒 立ち幅とび：男子 163.86cm、女子 150.21cm）

【基本的な方向 5：健やかな体の育成】

○中学校では、令和 7 年度の新体力テストにおける合計点数を令和 3 年度の男子平均（37.18 点）・女子平均（46.72 点）よりも、それぞれ 5 ポイント（5 点）向上させる。

【基本的な方向 5：健やかな体の育成】

### 【学びを支える教育環境の充実】

○令和7年度の小学校全国学力・学習状況調査の「5年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を10%以上にする。

令和7年度の中学校全国学力・学習状況調査の「1, 2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を20%以上で維持する。

#### 【基本的な方向6：教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】

○令和7年度までに、ゆとりの日については、週1回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業日においては1日以上設定する。

#### 【基本的な方向7：人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

○令和7年度末の校内調査において、児童生徒1人当たりの学校図書館年間貸出冊数を、令和3年度（25冊/人）より3冊増加させる。

#### 【基本的な方向8：生涯学習の支援】

○令和7年度末の保護者アンケートの「PTA活動や学校支援活動には、時間の都合がつけば、積極的に参加したいと思う」の項目について、令和3年度（小学校：45.8%、中学校：50%）より5ポイント増加させる。

#### 【基本的な方向9：家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【安全・安心な教育の推進】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- ・ 小学校学力経年調査及び年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童生徒の割合を 90% 以上にする。
- ・ 年度末の校内調査において、不登校児童生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童生徒の改善の割合を増加させる。

#### 学校の年度目標

- 令和 5 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。 【基本的な方向 1：安全安心な教育環境の実現】
- 令和 5 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童生徒の割合を 90% 以上にする。 【基本的な方向 1：安全安心な教育環境の実現】
- 令和 5 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童生徒数を前年度の値より減少させる。 【基本的な方向 1：安全安心な教育環境の実現】
- 令和 5 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童生徒の割合を前年度の値より減少させる。 【基本的な方向 1：安全安心な教育環境の実現】
- 令和 5 年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童生徒の割合を前年度の値より 2% 増加させる。 【基本的な方向 2：豊かな心の育成】
- 令和 5 年度末の校内調査の「人それぞれのちがいや命を大切にすることを学習している」（小学校）、「学校では、命や人権の尊さについて考えることにつながる学習をおこなうことができる」（中学校）の項目について、肯定的に答える児童生徒の割合を、90% 以上にする。 【基本的な方向 2：豊かな心の育成】

## 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

### 全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査及び年度末の校内調査における「学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童生徒の割合を小・中学校ともに 35%以上にする。

#### 《小学校》

- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.03 ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 73%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 64%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 60%以上にする。

#### 《中学校》

- ・中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.03 ポイント向上させる。
- ・大阪市英語力調査における CEFR A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学校 3 年生の割合（4 技能）を 66%以上にする。
- ・年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を 50%以上にする。

### 学校の年度目標

- 令和 5 年度の小学校学力経年調査・中学生チャレンジテストにおける標準化得点・対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度の値より向上させる。

【基本的な方向 4：誰一人取り残さない学力の向上】

- 令和 5 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度の値より 2 ポイント減少させる。

【基本的な方向 4：誰一人取り残さない学力の向上】

- 令和 5 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度の値より 2 ポイント増加させる。

【基本的な方向 4：誰一人取り残さない学力の向上】

- 令和 5 年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を 2 割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度の値より 2 ポイント増加させる。

【基本的な方向 4：誰一人取り残さない学力の向上】

- 令和 5 年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度の値より 2 ポイント減少させる。

【基本的な方向 4：誰一人取り残さない学力の向上】

○令和５年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、前年度の値より２ポイント増加させる。

【基本的な方向４：誰一人取り残さない学力の向上】

○令和５年度末の校内調査の「習熟度別少人数授業やグループ別の授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に答える児童・生徒の割合を８５％以上にする。

【基本的な方向４：誰一人取り残さない学力の向上】

○令和５年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、小学校では特に課題である５０ｍ走と立ち幅とびの平均の記録を、前年度の値より向上させる。

【基本的な方向５：健やかな体の育成】

○中学校では、令和５年度の新体力テストにおける合計点数を前年度の値の男子平均・女子平均よりも、それぞれ２ポイント（２点）向上させる。

【基本的な方向５：健やかな体の育成】



## 【学びを支える教育環境の充実】

### 全市共通目標（小・中学校）

○令和５年度の小学校全国学力・学習状況調査の「５年生のときに受けた授業で、コンピュータなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を 10%以上にする。

令和５年度の中学校全国学力・学習状況調査の「１，２年生のときに受けた授業で、コンピュータなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を 20%以上で維持する。

### 【基本的な方向 6：教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】

○ゆとりの日を毎週木曜日に設定し、実施する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は 3 日以上、夏季休業期間以外の休業日においては 1 日以上設定する。

### 【基本的な方向 7：人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

### 学校の年度目標

○令和５年度末の校内調査において、学年ごとの学校図書館年間貸出冊数を、各学年とも前年度より 1 冊増加させる。

### 【基本的な方向 8：生涯学習の支援】

○令和５年度末の保護者アンケートの「PTA 活動や学校支援活動には、時間の都合がつけば、積極的に参加したいと思う」の項目について、前年度の値（小学校：55.3%、中学校：54%）より 2 ポイント増加させる。

### 【基本的な方向 9：家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】

## 【その他】

### 学校園の年度目標

○小中一貫教育の強みを最大限に生かす中で、ちがいを認め合い個性や能力を伸ばす教育の推進を図り、全市募集による入学希望者数を含め、新 1 年生の複数学級を維持する。

## 3 本年度の自己評価結果の総括

本校は従来よりさまざまな人権教育に取り組み、高い人権意識をもつ豊かな心の涵養を図ってきた。安全安心な教育の推進における学校の年度目標は、ほぼ達成できた。なかでも、遅刻率は増加したが、欠席の続く児童生徒の登校によるもので、不登校の改善に向けた取組の成果であると認識する。未来を切り拓く学力・体力の向上における学校の年度目標も、ほぼ達成できている。しかしながら、児童生徒一人一人の学力向上につながっている現状ではないため、いままでの取組に加え、家庭学習や規則正しい生活の定着にも積極的に取り組んでいく必要がある。学びを支える教育環境の充実における学校の年度目標もほぼ達成できている。教職員の心と体の負担軽減に取り組みながらも、全市共通目標の達成にむけて、引き続き取組を推進する。



## 小中一貫校むくのき学園 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【安全・安心な教育の推進】</b></p> <p><b>全市共通目標(小・中学校)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校学力経年調査及び年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童生徒の割合を90%以上にする。</li> <li>・ 年度末の校内調査において、不登校児童生徒の在籍比率を前年度より減少させる。</li> <li>・ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童生徒の改善の割合を増加させる。</li> </ul> <p><b>学校の年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 令和5年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 <b>【基本的な方向1: 安全・安心な教育環境の実現】</b></li> <li>○ 令和5年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童生徒の割合を90%以上にする。 <b>【基本的な方向1: 安全・安心な教育環境の実現】</b></li> <li>○ 令和5年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童生徒数を前年度の値より減少させる。 <b>【基本的な方向1: 安全・安心な教育環境の実現】</b></li> <li>○ 令和5年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童生徒の割合を前年度の値より減少させる。 <b>【基本的な方向1: 安全・安心な教育環境の実現】</b></li> <li>○ 令和5年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童生徒の割合を前年度の値より2%増加させる。 <b>【基本的な方向2: 豊かな心の育成】</b></li> <li>○ 令和5年度末の校内調査の「人それぞれのちがいや命を大切にすることを学習している(小学校)」、「学校では、命や人権の尊さについて考えることにつながる学習をおこなうことができる(中学校)」の項目について、肯定的に答える児童生徒の割合を、90%以上にする。 <b>【基本的な方向2: 豊かな心の育成】</b></li> </ul>	A

	年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
生活指導部	<p>取組内容①【基本的な方向１：安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>なかまについて考える取組を企画し、他の人の立場に立ち物事を考えることのできる集団を育成する。また、職員アンケートなどを通して、児童生徒との関わりのなかで有用であると感じられる取組の情報共有を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>学校診断アンケートの「人を傷つけるような言葉や行動を許さない学年になっていると思う。(小学校)」・「学校は、いじめや暴力行為を許さない安心できる場所になっている。(中学校)」の項目において、肯定的回答の割合を75%以上にする。</p>	B
生活指導部	<p>取組内容②【基本的な方向１：安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>自律的な生活習慣や規範意識を育成し、集団生活を通じて社会連帯の基礎を養う。特に、学期に１度、登校指導・集団登校強化週間を行うなどして、遅刻指導の徹底を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>学校のきまりをもとに指導のあり方を共有しながら、さまざまな場面での児童生徒の規範意識を高め、前年度よりも総授業日数に対する遅刻件数の割合を減らす。</p>	B
共生部	<p>取組内容③【基本的な方向２：豊かな心の育成】</p> <p>小中一貫校として９年間を見通した系統的な人権教育を推進し、豊かな人権感覚を育てる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>人権教育推進にかかわる年間方針、人権教育確認事項をもとに、学校生活全般において人権を意識した教育を行い、人権課題に関わる取組を年間計画にそって各学年で取り組む。</p>	A
生活指導部	<p>取組内容④【基本的な方向２：豊かな心の育成】</p> <p>一人ひとりに役割を与えて活躍の場をつくり、達成感・充実感を味わうことで、自己有用感・自尊感情を育む。また、職員アンケートなどを通して、児童生徒との関わりのなかで有用であると感じられる取組の情報共有を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>学校診断アンケートの「自分にはよいところがある。」の項目において、肯定的回答の割合を小・中学校ともに80%以上にする。</p>	A

## 取組内容⑤【基本的な方向1：安全・安心な教育環境の実現】

児童生徒がものを大切に取り扱うことができるように、清掃用具の管理や取り扱いについて共通認識を図る取組をおこなう。

## 指標

学校診断アンケートの「責任をもって係や当番活動をしたり、みんなと協力して清掃活動に取り組んだりしている（小学校）」「学校のを大切に扱い、自分の役割に責任を持ち、みんなと協力をして清掃活動に取り組んでいる（中学校）」という項目について肯定的な回答の割合を90%以上にする。

A

## 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

## 【取組内容①】

1・2学期ともに「grow up むくのき」を実施した。児童生徒がそれぞれの学級目標に向かって主体的に行動したり、自己や他者とのちがいについて考えたりする機会となった。

2学期には職員アンケートを実施し、教職員全体で児童生徒との関わり方について情報共有を図ることができた。

学校診断アンケートの「人を傷つけるような言葉や行動を許さない学年になっていると思う。（小学校）」「学校は、いじめや暴力行為を許さない安心できる場所になっている。（中学校）」の項目では、肯定的回答の割合が（小学校）73.2%、（中学校）83.8%となり、中学校は目標達成となったが、小学校は目標数値を超えなかった。

## 【取組内容②】

遅刻について、前年度の総授業日数（1・2学期）に対する遅刻件数の割合が（小学校）3.14%、（中学校）5.19%であったが、今年度は（小学校）3.88%、（中学校）7.38%であった。

小・中学校ともに前年度より遅刻率が増加した。今年度より小学校のみの集団登校を実施し、より多くの児童が参加するように声掛けや班長会議などを行ったが遅刻率は増加してしまった。一方で、小中学校ともに、欠席の続く児童生徒が遅刻してでも登校するようすが多くみられるようになった。

## 【取組内容③】

各学年の実態に応じて、地域間交流を中心とした取組を概ね実施することができた。また、どきどき・四者活動は活動回数を確保して小・中学校合同で文化祭の発表につなげることができた。各学年においても計画通り文化祭で舞台発表を行うことができた。

後期には、UD 学習や支援学校との交流、志学式など「人権課題に関わる取組」の年間計画にそって、各学年で取り組むことができた。

## 【取組内容④】

小学校では委員会活動、中学校では各種委員会、係活動などで、一人一人に役割を与えて活躍の場をつくることができた。学校診断アンケートの「自分にはよいところがある。」

の項目において、肯定的回答の割合が（小学校）87.2%、（中学校）81.8%と、小中学校ともに目標を達成することができた。

**【取組内容⑤】**

学校診断アンケートで「責任をもって係や当番活動をしたり、みんなと協力して清掃活動に取り組んだりしている（小学校）」「学校のものを大切に扱い、自分の役割に責任を持ち、みんなと協力をして清掃活動に取り組んでいる（中学校）」という項目についての肯定的回答率が92.6%（小学校）94.6%、（中学校）88%であり、年度目標を小学校では、達成することができた。

環境委員が中心になり清掃用具の正しい使い方についての動画を作成し、児童呼びかけを行った。また、掃除チェックとして、各クラスの掃除用具箱や靴箱、雑巾の整理などの確認を行って、丁寧にものを扱うよう意識できるようにした。

次年度への改善点

**【取組内容①】**

各学級が安全安心でいじめのない学級経営を行い、児童生徒の安心できる場所を作っていけるように、grow up むくのきなどの活動を行う。

**【取組内容②】**

小学校は集団登校、中学校は毎週の集会等で、遅刻指導を徹底していくことに加え、遅刻率の計算方法を見直し、生徒会等と協力しながら改善に取り組む。

**【取組内容③】**

ときどき・四者活動においては、各講座の活動内容の充実や時間調整などを図る。平和人権の取組内容や実施方法を次年度から変更予定なので、本校の実態にそった形かどうか検証する。

**【取組内容④】**

児童生徒一人一人に役割を与え、活躍の機会を作ることを続ける。

**【取組内容⑤】**

清掃活動に対して真剣に取り組む姿勢が見られるようにはなってきたものの、継続して取り組んでいる児童生徒は少ない。

今後、清掃活動の呼びかけや清掃チェックなどを定期的に行い、真剣に清掃に取り組む姿勢を継続させられるよう指導する。

## 小中一貫校むくのき学園 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p><b>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p><b>全市共通目標 (小・中学校)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校学力経年調査及び年度末の校内調査における「学級の友達 (生徒) との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童生徒の割合を小・中学校ともに 35%以上にする。</li> </ul> <p>《小学校》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.03 ポイント向上させる。</li> <li>・ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 73%以上にする。</li> <li>・ 小学校学力経年調査における「外国語 (英語) の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 64%以上にする。</li> <li>・ 小学校学力経年調査における「運動 (体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 60%以上にする。</li> </ul> <p>《中学校》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.03 ポイント向上させる。</li> <li>・ 大阪市英語力調査における CEFR A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学校 3 年生の割合 (4 技能) を 66%以上にする。</li> <li>・ 年度末の校内調査における「運動 (体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を 50%以上にする。</li> </ul> <p><b>学校の年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 令和 5 年度の小学校学力経年調査・中学生チャレンジテストにおける標準化得点・対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度の値より向上させる。 【基本的な方向 4 : 誰一人取り残さない学力の向上】</li> <li>○ 令和 5 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度の値より 2 ポイント減少させる。 【基本的な方向 4 : 誰一人取り残さない学力の向上】</li> </ul>	B

<p>○令和５年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の７割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度の値より２ポイント減少させる。 【基本的な方向４：誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○令和５年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を２割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度の値より２ポイント増加させる。 【基本的な方向４：誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○令和５年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を２割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度の値より２ポイント増加させる。 【基本的な方向４：誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○令和５年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、前年度の値より増加させる。 【基本的な方向４：誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○令和５年度末の校内調査の「習熟度別少人数授業やグループ別の授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に答える児童生徒の割合を８５％以上にする。 【基本的な方向４：誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○令和５年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、小学校では特に課題である５０ｍ走と立ち幅とびの平均の記録を、前年度の値より向上させる。 【基本的な方向５：健やかな体の育成】</p> <p>○中学校では、令和５年度の新体力テストにおける合計点数を前年度の値の男子平均・女子平均よりも、それぞれ２ポイント（２点）向上させる。 【基本的な方向５：健やかな体の育成】</p>	
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		達成状況
研究部	<p>取組内容①【基本的な方向４：誰一人取り残さない学力の増加】 児童生徒一人一人が個々の目標に主体的に取り組む環境を作る。</p> <hr/> <p>指標 算数・数学科プリント・デジタルドリルに取り組む。 年間目標 小学校（低学年）…８０回、（中学年）…８０回、（高学年）…８０回 中学校…１００回</p>	A
	<p>取組内容②【基本的な方向４：誰一人取り残さない学力の増加】 授業における能動的な活動の充実を図り、児童生徒が主体的に、協働的に学習に取り組めるようにする。</p> <hr/> <p>指標 発達の段階に応じた形で、グループディスカッション、ディベート、グループワーク等、協働して課題の発見・解決ができる場を設定し、学校診断アンケートにおいて、「授業で自分の考えを説明したり、発表したりしている（小学校）」、「授業では自分の考えを発表する機会がよく与えられている（中学校）」、「授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っている（中学校）」の項目において、肯定的な回答を８０％以上にする。</p>	B

<p>取組内容③【基本的な方向 5：健やかな体の育成】</p> <p>(小学校)児童が意欲的に運動に取り組めるよう、運動する機会を増やすくふうをする。</p> <p>(中学校)睡眠や食事など基本的な生活習慣を定着させる取組を行い、健やかな体の育成を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>(小学校) 学校診断アンケートにおいて「クラブ活動や体育の授業、休み時間など、運動することは楽しい」の肯定的回答率を90%以上にできるよう運動への意欲を高める取組を実施する。</p> <p>(中学校)学校診断アンケートにおいて「毎日同じくらいの時間に寝ている」の肯定的回答率を85%以上、「朝食を毎日食べている」の肯定的回答率を80%以上にできるよう、基本的な生活習慣の確立をめざした取組を実施する。</p>	<p>B</p>
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>【取組内容①】</p> <p>すべての学年で目標枚数を上回ることができた。</p> <p>【取組内容②】</p> <p>すべての学年において、授業でグループワークやグループディスカッションを取り入れることができた。「少人数授業やペア・グループ学習はわかりやすい」の項目では目標を達成できた。また、「授業で自分の考えを説明したり、発表したりしている。(小学校)」の項目では、2学年が目標を達成できたが高学年の値は非常に低かった。</p> <p>中学校においては、両項目において肯定的な回答が大幅に上回っている。また、自主学習においては児童生徒が主体的に取り組み、どの学年も90%以上の取組率をあげている。</p> <p>【取組内容③】</p> <p>(小学校) 学校診断アンケートにおいて「クラブ活動や体育の授業、休み時間など、運動することは楽しい」の肯定的回答率は91.5%で目標を上回った。</p> <p>今年度は運動委員会を中心に、運動する機会を増やすための計画を立て、集会の時間に取組を実施した。しかしながら、耐寒駆け足は、校庭工事の影響で、行事として取り組むことはできなかった。</p> <p>(中学校) 学校診断アンケートにおいて「毎日同じくらいに寝ている」の肯定的回答率は73.5%であり、目標を達成できなかった。</p> <p>あわせて、「朝食を毎日食べている」の肯定的回答率は79%で目標を達成できなかった。1学期から継続して掲示物や保健だより等を活用し、規則正しい生活の必要性は伝えてきたが、習い事や塾、スマホやゲーム機の使用により毎日同じ時間に寝たり食事をしたりすることが厳しいことがわかる結果となった。</p>	



## 次年度への改善点

### 【取組内容①】

内容等を精査し、より個々の学力向上につながる取組にする。

### 【取組内容②】

学年によって肯定的な回答の割合にばらつきがあるので、今後もグループワークやグループディスカッションを通して、協働する中で自らの課題の発見・解決ができるように実施する。

### 【取組内容③】

(小学校) 今年度は運動に関する取組を全学年で実施することができた。今後も体力向上に関わる取組を行っていくとともに、運動することが楽しいと感じられる児童を前年度より増やせるようにする。

(中学校) スマホ・ゲーム機等を所持している生徒が多く、睡眠時間を減らす原因になっている。また、睡眠時間が短いことで朝起きることができず、朝食を食べないことにもつながっている。規則正しい生活ができない原因を追究し、規則正しい生活習慣を身につけることの大切さを、委員会活動や掲示物・保健だより等を活用し、伝える。

(様式 2)

## 小中一貫校むくのき学園 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p><b>全市共通目標 (小・中学校)</b></p> <p>○令和 5 年度の小学校全国学力・学習状況調査の「5 年生のときに受けた授業で、コンピュータなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を 10%以上にする。</p> <p>令和 5 年度の中学校全国学力・学習状況調査の「1, 2 年生のときに受けた授業で、コンピュータなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を 20%以上で維持する。</p> <p><b>【基本的な方向 6 : 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】</b></p> <p>○ゆとりの日を毎週木曜日に設定し、実施する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は 3 日以上、夏季休業期間以外の休業日においては 1 日以上設定する。</p> <p><b>【基本的な方向 7 : 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</b></p> <p><b>学校の年度目標</b></p> <p>○令和 5 年度末の校内調査において、学年ごとの学校図書館年間貸出冊数を、各学年とも前年度より 1 冊増加させる。 <b>【基本的な方向 8 : 生涯学習の支援】</b></p> <p>○令和 5 年度末の保護者アンケートの「PTA 活動や学校支援活動には、時間の都合がつけば、積極的に参加したいと思う」の項目について、前年度の値より 2 ポイント増加させる。 <b>【基本的な方向 9 : 家庭・地域と連携・協働した教育の推進】</b></p>	B

	年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
教務部	<p>取組内容① <b>【基本的な方向 6 : 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】</b></p> <p>ICT 機器の利活用推進の為、教職員、児童、生徒が負担なく使用できるように環境を整備する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>全国学力・学習状況調査の「5 年生 (7, 8 年生) のときに受けた授業で、コンピュータなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童生徒の割合を中学校は 20%以上、小学校は 10%以上にする。</p>	B
研究部	<p>取組内容② <b>【基本的な方向 8 : 生涯学習の支援】</b></p> <p>学校図書館や学級文庫に児童生徒の興味のある書籍を充実させ、児童生徒に読書習慣を身につけさせる。</p>	B

指標	<ul style="list-style-type: none"><li>・図書館支援員と協力して、月に1度程度、児童生徒の学年に応じた推薦図書を紹介する。</li><li>・学校図書館、巡回図書、学級文庫等を活用して、小学校では読書の時間を週1回、中学生では朝読書の時間を週3回程度設け、読書習慣を身につけさせる。</li><li>・中学校の学校診断アンケートの「ふだんから読書をしている」35.1%、「教室や図書室の本をよく利用している」27.0%の項目について（数字は令和4年度の肯定的回答率）それぞれ2ポイント増加させる。</li></ul>	
取組内容③【基本的な方向7：人材の確保・育成としなやかな組織づくり】	毎週木曜日は「ゆとりの日」であることを職員朝礼等でアナウンスし、定時退勤を促進する。	A
指標	月80時間以上の時間外超過勤務について、学校全体で月平均1名以下にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<p>【取組内容①】</p> <p>（小学校）授業の合間に navima や学習コンテンツを使用するよう言葉がけをするなど、年間通して指導したことで、「ほぼ毎日」と答えた児童の割合が17.9%と目標を超える結果となった。大阪府・全国の平均は、下回っているが、「週3回以上と答えた児童の割合は、全国平均に対しても非常に高かった。</p> <p>（中学校）利活用しやすい環境整備に努めたことで、「ほぼ毎日」と答えた生徒の割合は14.3%と目標を下回ったが、「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と答えた生徒の割合は全国平均を超えた。</p>		
<p>【取組内容②】</p> <p>推薦図書の紹介や学校図書館、巡回図書、学級文庫等の充実をはかり、読書習慣を身につけさせるように取り組むことができた。また、職員室に返却ポストを設置するなど中学生が利用しやすい環境づくりに取り組んだ。</p> <p>学校診断アンケートの結果では「ふだんから読書をしている」の割合は、37.3%と昨年度を2.2ポイント上回ったが、「教室や図書館の本をよく利用している」の項目に関しては、21.8%と昨年度を大幅に下回った。</p>		
<p>【取組内容③】</p> <p>4月から現在まで、長時間勤務80時間超えの教職員は小・中学校あわせて月平均1名以下で、本校の昨年度の同年同月の平均時間外勤務時間は、各月において改善している。</p> <p>また、ストレスチェックにおいては、課題があるレベルではないが、仕事の量的負担、コントロール度が少し高くストレス傾向にある。</p>		

#### 次年度への改善点

##### 【取組内容①】

児童生徒が ICT 機器を使用する習慣を身につけることができた。「その 1 日のあいだに 1 回以上利用されている学習者用端末数 / 全学習者用端末数」の割合は小学校で 80% 程度、中学校では 75% 程度と高い水準を維持することができた。

引き続き、ICT 機器を活用しやすい環境整備を行い、授業での使用率を高め、割合向上に努める。

##### 【取組内容②】

中学生においては、実質昼休みの時間等を確保できず図書館利用は難しい状態である。しかしながら、図書館利用率を上げるために、生徒たちがより興味関心をもつような図書を充実させるとともに、学校図書館、巡回図書、学級文庫等を有効に活用し、普段から読書をする習慣をつけさせるよう、呼びかけを行う。

##### 【取組内容③】

年度末にむけて、長時間勤務が多くなる時期ではあるが、毎週木曜日のゆとりの日、もしくは週に 1 日は定時退勤ができるよう、引き続き職員室内での掲示や木曜日以外でも、退勤を促す声かけ等で意識づけ、時間外勤務時間の短縮にむけて取り組む。

また、効率よく業務を行えるよう、職場環境の改善や、業務内容の見直しなどにも教職員で連携を取り、積極的に取り組む。

小中一貫校むくのき学園 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p><b>【その他】</b></p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○小中一貫教育の強みを最大限に生かす中で、ちがいを認め合い個性や能力を伸ばす教育の推進を図り、全市募集による入学希望者数を含め、新１年生の複数学級を維持する。</p>	A

<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	<p>達成状況</p>
<p>取組内容①【基本的な方向4：誰一人取り残さない学力の向上】 【基本的な方向7：人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 小学校からの一貫性を生かした学びに連続性をもたせ、効果的な小中協働授業を行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入り込みなどを通して小学校教員と中学校教員で小中協働授業をおこない、学校診断アンケートの小中一貫した教育に関する質問での肯定的回答率を80%以上にする。</li> <li>・1年に1回程度、小中同じ教科・領域の教員で情報交換・情報共有を行う。</li> <li>・相互授業参観を設定し、小中の教員がそれぞれ1回以上参観する。</li> </ul>	<p>B</p>
<p>取組内容②【基本的な方向9：家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 通信類・学校ホームページによる情報発信を内容・回数ともに、さらに充実させる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>学校ホームページは、週に4回以上の更新に努める。また、保護者メールの有効利用など、より多角的で詳細な情報発信・情報提供に取り組む。</p>	<p>A</p>
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【取組内容①】</p> <p>小・中学校への入り込み授業が順調に行われた。また、相互授業参観週間が11月に2週間実施され、教職員間での事後アンケートでも実施に関して肯定的な意見が多かった。</p> <p>学校診断アンケートでは、小中一貫した教育に関する質問で肯定的な回答の割合が90%を上回った。</p>	

**【取組内容②】**

保護者通信アプリ「ミマモルメ」やホームページで多角的な情報発信が行われている。

ホームページにおいては、昨年度は 60,218 件閲覧数であったが、今年度は現時点においてすでに超えており、保護者アンケートにおいても、こまめな掲載や楽しい内容について好評である。また、見やすいホームページを心掛け、掲載情報の整理やカラフルで楽しい雰囲気になるように改善を行った。

次年度への改善点

**【取組内容①】**

日ごろから入り込みなどで小中学校の教員が情報共有できている。しかしながら、小・中学校間において同じ教科・領域の教員における情報交換・情報共有がなかなか時間を確保することができていないため、次年度以降は行事を確認し、月中行事に入れる。

また、相互授業参観週間等を通じて、教員どうしでの情報や指導法の共有をより深く行う。

**【取組内容②】**

次年度にむけて、保護者のミマモルメへの登録やアンケート集約をはじめとする有効活用の準備や計画を行う。